の樣子によりて、水をさす事專なり、炎氣をいとゐて水をさすにあらず、此事茶道の第一なり、能能本末をたゞして働くべし、これらのことある故、茶の茶たる事を去る主の思ひ入、尤至極なり、

〔槐記〕享保十一年十月二日、參候、先日ノ道乙、茶ノ話ヲ申シ上タルニ付テ、今ノ人ノ茶ノ湯ニ濃茶ヲ立テ客ヘ出シヲキ、亭主ハ釜ノ蓋ヲシメ柄杓ヲ直シ、跡ヘ退キテ點ジ、二番目ノアタリヘ茶ノ度ル時分ニ、又進ミテ蓋ヲトリ水ヲサシ、柄杓ヲカザリテ相待コト、コレ尋常也、定テ先日ノ茶モ左アルベシ、アレハ何トシタルト云譯ヲ存知タルヤ、コレハ常修院殿○慈胤法親王ノ常ニ仰ラレシコト、普通ニハセヌコト也、一度茶ヲ出シテ、何ノ爲ニ半ニ仕廻ベキヤウナシ、何時モ後西院ヘ御茶上ラレシニ折ニフレテ、上ヨリ拜領ノ茶トカ、左ナクテモ御相伴アルベキ由ノ仰アレバ、必釜ノ蓋ヲシメ柄杓ヲ直シテ坐ヲ立チ、末坐ニ付テ御相伴ナサレシ也、總ジテ亭主ノ相伴ナラデハセヌコト也ト仰○近衛家熙ラル、

〔槐記續編〕享保十七年七月十六日、如例參候、二服三服ノウス茶ノトキ、湯スヽギスルコト、他流ニハ絶テコレナキコト也、御流義ニカギリタルコトナルカ、此度加州ヘ下向ノ節、金森ニ相尋シニモ、湯ヌヽギハ一遍也、二遍ハセズト申ス、二遍スヽゲバ濃茶ニナルノ由ヲ申ス、イカヾト伺フ、仰ニ、○近衛家熙古ヘ後西院ノ御前ニテ、常修院殿○慈胤法親王ヲ初メ、三菩提院○貞敬法親王並ニ御前ニモ、度々御薄茶ノコトアリシニモ、湯スヽギ一遍、茶筌湯スヽギ一遍、凡テ二遍也ト御覺エナリ、是モ何トゾ堂上堂下ノ差別ナリヤ、イサシラズト仰也、

〔貞要集四〕茶調る心持之事

一針屋宗眞は名ある茶人、老後に其比好者ども、利休織部茶道前、如何やうに有之哉と相尋候へば、宗眞答に、織部手前は、扨も〳〵りつはなる事、今に目に付候樣におもはれ候、あのごとくにも立申さるゝ事かと感に絶る、利休手前は、見とり候半と目を付るに、いつ立出し、又仕廻申まで見